

児童福祉施設に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）は、障害児とその保護者のみを対象として、子育てに関する相談に応じ、必要に応じ助言を行う施設である。
2. 助産施設は、特定妊婦を入院させて、助産を受けさせることを目的とした施設で、助産師等病院に必要な職員のほか、保育士の配置も義務とされている。
3. 児童自立支援施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とした施設である。
4. 母子生活支援施設に入所した児童については、都道府県等は保護者から申込みがあり、かつ、必要があると認めるときは、満20歳に達するまで保護することができる。
5. 障害児入所施設には、感染症や非常災害の発生時において利用者に対する支援の提供を継続的に実施するための「業務継続計画」の策定は、義務付けられていない。

〔正答番号〕 1 2 3 5

児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 自立援助ホームは、経営安定を通じた利用者の保護の必要性が高い第一種社会福祉事業である。
2. 「児童養護施設入所児童等調査の概要（平成30年2月1日現在）」によると、自立援助ホームの利用期間は、1年未満が最も多く、利用者全体の約60%を占めている。
3. 自立援助ホームの対象となるのは18歳未満の者であり、19歳以上の者は入所できない。
4. 自立援助ホームは、被虐待経験者はほとんど利用していない。
5. 自立援助ホームの利用者は、15歳以上の者が多いため、児童相談所や司法関係機関などとの連携は特に必要ない。

〔正答番号〕 1 3 4 5

障害者に関する法律等に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 障害者基本法では、「何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない。」と規定されている。
2. 発達障害者支援法では、「障害者である労働者は、経済社会を構成する労働者の一員として、職業生活においてその能力を発揮する機会を与えられるものとする。」と規定されている。
3. 障害者に対する虐待については、いわゆる障害者総合支援法に規定されており、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・性的虐待の四つについて禁止されている。
4. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律で規定されている入院形態は、措置入院の1種類である。措置入院は、精神障害を持つ本人の申出に基づいて行われる。
5. 障害者手帳は、身体障害者手帳、療育手帳の2種類であり、障害は障害者自立支援法の対象となり、様々な支援策が講じられている。

〔正答番号〕 2 3 4 5

子どもの一般的な発達と保育者の関わりに関する次の記述ア～オのうちには  
妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 3か月頃から、あやしかけなどへの反応として「生理的微笑」が見られるようになるため、保育者は子どもの情動に自らの情緒を調節させて関わるようにする。
- イ. 1歳3か月頃には、着脱を自分でしようとするなど自分でやりたいという欲求を持つようになるので、保育者は子どもの自分でやりたいという気持ちを大切にする。
- ウ. 2歳頃になると、子ども同士で遊びのルールを考えられるようになるので、保育者は子どもたちが互いに認め合えるクラス作りをしていくようにする。
- エ. 4歳頃になると、何か欲しい際に「～ちゃんも」と自分の名前を使ったり、自分の所有物を「～ちゃんの」と自己主張したりする姿が見られ始めるため、保育者は子どもの思いを丁寧に受け止めることが重要である。
- オ. 6歳頃になると、物を配列したり、空間を頭の中で描いたりしてイメージを作り上げるようになるため、保育者は作り上げたときの充実感や達成感を得られるような環境を整えるようにする。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, オ
- 4. ウ, エ
- 5. ウ, オ

〔正答番号〕 1 2 4 5

次のうち、児童期の発達に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 児童期には、ピアグループと呼ばれる排他的でない親密な仲間集団が形成され、その後ギャンググループへと変化していく。
2. 児童期には、友人選択の理由は行動や外的なものから人格などの内面的なものへと変化していく。
3. ピアジェによれば、7、8歳以降に他律的道德性の段階に入っていく。
4. セルマンによれば、児童期は、それぞれの人の視点が多次元的あるいは深いレベルで存在していることを相互に理解する段階である。
5. 小学校に入る時期になると「話しことば」が消失し、「書きことば」の世界に急に転換する。

〔正答番号〕 1 3 4 5

言葉の発達に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 喃語が最初に出現し、その後にクーイングが出現する。
2. 一語文の時期は一語で様々な意味を表現する。
3. 語彙爆発という現象は、三つ以上の単語を重ねた多語文を話すことをいう。
4. 第二質問期には「これ何？」などの質問をする。
5. 1歳6か月頃には、周囲の大人が幼児語で語りかけることが減り、子どもも成人語へと移行する。

〔正答番号〕 1 3 4 5

長時間保育に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 通常の保育時間を超えて提供される延長保育の時間には、乳児は幼児と共に生活し、にぎやかな雰囲気過ごせるとよい。
2. 保護者の就労形態等は様々であるので、長時間保育では、保護者の意向を最優先に対応することが望ましい。
3. 延長保育で非常勤保育士が乳児を担当し、保護者に伝達事項がある場合は、間違いがないようにするため、非常勤保育士からは伝えず、翌日、担任保育士から伝えるようにする。
4. 障害のある子どもの延長保育を行う際には、関係機関等と連携及び協力を図りつつ、個別の支援を行うように努める。
5. 延長保育を担当する保育士は、子どもたちが楽しめるよう、通常保育の状況は引き継がず、新たに保育を展開するとよい。

〔正答番号〕 1 2 3 5

日本における出生、死亡に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 出生順位別の母親の平均年齢を第1子について見ると、2018（平成30）年では1950（昭和25）年に比べて、5歳以上高くなっている。
- イ. 出生数は1970年以降増加傾向であったが、2010年代に入り、減少傾向に転じた。
- ウ. 乳児死亡率は、低下傾向にあるが、先進諸外国と比べると高い。
- エ. 年齢階級別死亡原因を0歳について見ると、第1位は「先天奇形、変形及び染色体異常」となっている。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

〔正答番号〕 1 3 4 5



乳幼児の基本的な生活習慣に関わる援助に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 1歳以上3歳未満児の保育では、手洗いの際に、手洗いに伴う快さの感覚と意味を結び付けて、その必要性を理解できるように、保育士は根気強く言葉がけをしながら関わるとよい。
2. 1歳以上3歳未満児の排泄に関しては、子どもの気持ちのがのらない場合でも、長い時間便器に座らせていれば排泄することもあるため、じっくり待つ姿勢が大切である。
3. 1歳位から衣服の着脱が始まるが、子どもが「自分でする」と言うことも多いため、その場合、保育士は子どもの様子を見守り、一切手伝わないようにする。
4. 3歳以上児では、一度身につけたと思われる基本的な生活行動が崩れることがある。これは、その必要性を感じられなくなっているためであり、保育士は丁寧に指導をし直すことが必要である。
5. 十分に遊んだ後の満足感があれば、次の活動への期待感を生み出し、片付けの必要性も理解するようになるため、自発的に片付けができるようになる時期まで、援助はせずに、じっくりと待つとよい。

〔正答番号〕 2 3 4 5